

## オランウータンの現状と新しい調査地の紹介 ～マレーシア・サバ州を中心に～

久世 濃子 氏 (京都大学大学院理学研究科)

オランウータンは東南アジアに生息する唯一の大型類人猿であり、ボルネオ島とスマトラ島にのみ生息している。現在、農業開発や森林伐採などによって生息地の破壊が急速にすすんでおり、絶滅の危機に瀕している。最近では UNEP (国連環境計画) が「オランウータンの生息地の大半が 25 年後の 2032 年までになくなる」と警告する報告書を発表している。

本発表ではまず、インドネシアとマレーシアにおけるオランウータンの現状が、地域によって異なっている点に着目して紹介する。特に 20 年後もオランウータンの生息地が残っている可能性が最も高い、とされているマレーシア・サバ州での保護活動や政策について報告する。

また、我々は原生林に生息する野生オランウータンの長期研究を行うことを目的に、2004 年にマレーシア・サバ州の Danum Valley 森林保護区内の観光用宿泊施設周辺 2km<sup>2</sup> を新しい野生オランウータンの調査地として設定し、調査を開始した。今までの調査の結果、ここに生息するオランウータンは、他所ではほとんど食物として利用されていないフタバガキ科を高い頻度で利用していることや、生息密度の月変動が大きいこと (0.4 - 8.0 頭/km<sup>2</sup>) など、新たな事実が次々と明らかになってきている。本発表では、映像や写真を交え、オランウータンの現状や原生林における生態について紹介する。